

第151回エイズ動向委員会
委員長コメント

《平成30年 第1・第2四半期》

【概要】

1. 今回の報告期間は平成30年1月1日～平成30年3月25日（以下A、前年同時期を α とする）
平成30年3月26日～平成30年6月24日（以下B、前年同時期を β とする）の約半年
2. 新規HIV感染者報告数は（A）207件及び（B）219件（（ α ）265件及び（ β ）241件）
3. 新規AIDS患者報告数は（A）83件及び（B）99件（（ α ）84件及び（ β ）99件）
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は（A）290件及び（B）318件

【感染経路・年齢等の動向】

1. 新規HIV感染者：
 - 同性間性的接触によるものが（A）148件及び（B）141件
（新規HIV感染者報告数の（A）約71%及び（B）約64%）
 - 異性間性的接触によるものが（A）39件及び（B）44件
（新規HIV感染者報告数の（A）約19%及び（B）約20%）
そのうち（A）は男性29件、女性10件（B）は男性33件、女性11件
 - 静注薬物によるものは（A）、（B）共に0件
 - 母子感染によるものは（A）、（B）共に0件
 - 年齢別では、20～40代が多い。
2. 新規AIDS患者：
 - 同性間性的接触によるものが（A）42件及び（B）61件
（新規AIDS患者報告数の（A）約51%及び（B）約62%）
 - 異性間性的接触によるものが（A）18件及び（B）19件
（新規AIDS患者報告数の（A）約22%及び（B）約19%）
そのうち（A）は男性15件、女性3件（B）は男性16件、女性3件
 - 静注薬物によるものは（A）1件及び（B）0件
 - 母子感染によるものは（A）、（B）共に0件
 - 年齢別では、30～40代が多い。

【検査・相談件数の概況（平成30年1月～6月）】

1. 保健所におけるHIV抗体検査件数は（A）19,791件及び（B）22,694件
（前年同時期確定値（ α ）20,833件及び（ β ）22,772件）
自治体が実施する保健所以外の検査件数は（A）7,576件及び（B）8,462件
（前年同時期確定値（ α ）7,145件及び（ β ）7,869件）
2. 保健所等における相談件数は（A）29,636件及び（B）31,477件
（前年同時期確定値（ α ）28,833件及び（ β ）30,419件）

【献血の概況（平成30年1月～6月）】

1. 献血件数（速報値）は、2,335,128件（前年同時期2,404,606件）
2. そのうちHIV抗体・核酸増幅検査陽性件数（速報値）は21件（前年同時期26件）
10万件当たりの陽性件数（速報値）は、0.899件（前年同時期1.081件）

《まとめ》

1. 平成30年の新規HIV感染者報告数を前年同時期と比較すると、第1、第2四半期共に前年同時期より減少していた。新規AIDS患者報告数については、第1四半期は前年同時期より減少し、第2四半期は前年同時期と同数だった。
2. これまでと同様、平成30年上半期の新規HIV感染者は20～40代、新規AIDS患者は30～40代で報告数が多かった。平成30年第1四半期に10歳代のHIV感染が報告された。一方で、平成30年第1四半期及び第2四半期に70歳以上の新規エイズ患者も報告されており、幅広い年齢層の報告がある。
3. 平成30年第1四半期及び第2四半期の保健所等におけるHIV抗体検査件数及び相談件数は前年同時期と同程度であった。早期発見は個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつくので、今後も保健所等の無料・匿名HIV抗体検査及び相談を積極的に利用していただきたい。